

岐阜市あけぼの会便り

令和元年12月号

紅葉、枯葉が舞い散る季節となりました。

今年は、インフルエンザの流行が早いということです。

みなさん、気をつけてください。

みんなねっと全国大会（刈谷市）に、17名（13家族）参加しました。

まだ、交通費補助をもらってみえない方は御連絡ください。

岐阜県家族会から45名程、全国から延べ1800名の参加でした。

12月例会（交流・相談会）

日時：12月10日（火）13:30~15:30

会場：南市民健康センター 3階

お茶を飲みながら、今年を振り返りましょう。

近況報告など、おしゃべりしましょう。

1月例会 新春講演会「親亡き後」

日時：1月13日（月・祭）13:30~15:30

会場：ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ

講師：堀場洋二氏（名古屋市精神障害者家族会連合会事務局・相談員）

岐阜県精神保健福祉研修会（主催：「ぎふかれん」）

令和元年2月1日（土）ぎふメディアコスモス

演題：「精神障がい者が地域でいきいきと暮らせるために
～誰もが自らの人生の主人公～」

講師：青木聖久（日本福祉大学教授、みんなねっと理事）

青木先生の著書本予約を受け付けます

「追体験 霧晴れる時」青木聖久著 定価 1430円（税込）

講演会「ギャンブル依存症 回復に向けて Be With !」

日時：令和2年1月11日（土） 受付 13:00～ 13:30～16:30

会場：OKBふれあい会館 中会議室（301）

主催：ギヤマノン岐阜グループ

例会は毎月 第一・第三の土曜日 14:00～16:00

イベント「ふれあい ハートフル ステージ」

参加無料

日時：令和2年12月22日（日） 受付 13:00～ 13:30～15:50

場所：ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール

式町水晶（脳性まひのポップバイオリニスト）コンサート

大垣北高等学校音楽部による合唱 など

問合せ：岐阜県障害者社会参加推進センター 058-273-1111 内線 2543

「ぎふかれん」の 家族による家族のための電話相談 058-271-8169

火・木曜日 10:00～15:00 お気楽に電話ください。

（服部は 事務局に、月・火・木・金曜日 ほぼ居ます。）

岐阜市あけぼの会 連絡先

服部 058-247-6004 熊谷 090-6578-9838

山内 058-246-0409 中村 090-7039-9447

石田 090-6084-2124 筒井 090-2685-0226

「ぎふかれん」058-271-8169

岐阜市楽らくクラブ（当事者会）

12月例会

日時：12月22日（日）13～15時（予定）

場所：日光コミュニティセンター 1F * 参加費200円

連絡先：石田 吉保（090-6084-2124）

山内久美子（058-246-0409）

筒井有紀子（090-2685-0226）

11月例会、みんなねっと全国大会（愛知）の報告

11月7日（木）午後 11月8日（金）午前 17名参加

基調講演（7日）

「社会で暮らす当事者のために精神医学は何ができるのか

：妊産婦出産から自動車運転まで」

尾崎紀夫教授（名古屋大学大学院医学系研究科）が熱弁されました。

- ・2013年の当事者へのアンケート調査から、精神科医療で使われる治療薬を服用することで、「あきらめたこと」の上位に、「結婚」「就職」「自動車運転」「出産・育児」が挙げられる。
- ・これからの精神科医療は、これらをあきらめることなく、その方なりに社会で暮らすことが出来るようにすること。
- ・双極性障害の患者さんの妊娠・出産について、薬の処方等の変更で無事出産できた事例。
- ・「産後うつ病」は、妊娠中からの多く人のサポートが有効である。
- ・自動車運転について、法律は、実際的でない。生活に不可欠であり、病名でなく、その症状で判断すべき（外国の例）。
- ・統合失調症の方は、平均寿命が一般の方より8～10歳短い。統合失調症の方は、身体の病気を持つことが多く、検査を受けることを心がける。新しい薬の開発を。

記念講演 「ベルギーにおける地域移行について」

ベルギー保健省のバナード・イエイコブ氏による（同時通訳）

ベルギーでは、日本と同じように私立の精神病院が多く、病床数が多かったが、ここ10年近くで患者の地域移行が急速に進んだ。常に当事者を中心に、「リカバリーの考え方」に焦点があてられてきた。

○精神保健の予防増進 ○急性期の家庭治療危機解決治療チーム、ACTチーム

○地域社会に再統合する為の精神科リハビリテーション ○集中的居住サービス

○生活困難患者への特別住居サービス。

など、地域で生活しながら治療を継続できるようにする対策が取られています。

その後、本条理事長よりみんなねっと活動報告、厚労省寺原課長補佐による行政報告。

懇親会 岐阜県からは、ぎふかれん6名、支援者2名で8名の参加。次回は宮崎県。

11月8日（金） 分科会（1から5）と講演会

第1分科会 「当事者の地域移行・地域定着」

第2分科会 「諸外国から福祉を学ぶ」

精神医療について諸外国で長く（イギリス、イタリア）に滞在し、実際に福祉について学ばれた方から説明がありました。

両国ともに精神保健サービスが充実しており、イギリスでは、地域精神医療チームの強化とケアラー（家族）をもケアするガイドラインが作られた。

イタリアではバザーリア法により地域医療が急速に実現し、41年が経過。現在の精神保健局の家族会支援活動等が報告されました。

第3分科会 「医療費助成の全国展開について」

全国市町村の医療費助成実態の一覧表が作成され、説明されました。

第4分科会 「交通運賃の格差是正運動」

今年6月に国会で請願採択となったが、戦いはこれから。運動の今後の進め方、JRに対する全国一斉の要望活動、交通機関へのハガキ戦略など。

第5分科会 「福祉としての障害年金について（困難事例）」

講演会（第6分科会）

「統合失調症治療の大切な考え方と進め方」（アウトリーチも含めて）

講師：渡部 和成（田宮病院院長）

統合失調症の治療目標は、

患者さんが病状をうまく管理し、孤立せず社会参加し、自然な笑顔で自分らしく生きられるようになること。同時に、家族も人生の幸せを感じられるようになること

統合失調症（病名の意味）

「統合」：心や行動をまとめること 「失調」：上手くいっていないこと

「症」：状態、状態は変化するから、良くなる病気

治療 原因不明の慢性疾患なので、二つを常に並行して実施

「心の病気」に対しての希望を持たせる心理社会療法と

「脳の病気」に対する薬物療法

先生の病院の「統合失調症の教育入院」

・患者心理教育（6回1クール）病気の理解、対処・管理法、ピアサポート。

1日の生活リズムを作る。

朝起きた時の心のエネルギーを知り、無理しない行動計画を立て実行。

心のエネルギーの70～80%で1日を終えるように。

心のエネルギーを高めるためには、安心し、病からの回復への希望を持ち続け、レジリエンス（回復力、抗病力、自然治癒力、生きる）を向上させることが重要。

・家族心理教育（8回1クール）病気の理解。LowEE家族（愛の距離）の重要性。

（① 批判しない ② 敵意を持たない ③ 感情的に巻き込まれない ④ ほめる ⑤ 温かな家庭）

病から脳とところを解き放つ

患者さんには、一人の尊厳を持った個性豊かな人としての人生を送られるように、

“適切に認識し判断できる脳”と “自分らしく生きようとするところ”を

統合失調症という病の鎖から解放し、人生を生き抜いて欲しい。

そのためには、統合失調症では、患者さんの認知機能を改善することが必要となる

会員の感想

熊谷 久子

- 1日目 名古屋大学大学院教授。《出産から運転免許まで。》
病気を持っている妊婦さんがいかに良い出産が出来るか…の支援の仕方。
良くわかりましたが、その後の地域でのフォローの仕方・パートナーへのフォローの仕方も取り入れていただき良かったです。
- 2日目 『障害年金取得の困難事例』
東京一括申請になってからの問題点・再審請求の問題点など、労務士さんお二人のパワーあふれるお話が面白かったです。結論として、統合失調症、躁うつ病（双極性障害）以外の方が障害年金を申請しようとしたら、専門家に任せた方が良い。ましてや病院受診はしているが、薬は飲んでいない…が、引きこもっている、不安障害で働けない…等、病院の処方箋のない方の申請の仕方。専門家でないとだめと感じました。

第35回「知ってもらいたい心の病」（報告）

10月6日（日） 美濃市中央公民館

「障害者差別解消法と学齢期における特別支援教育について
～家族支援の視点から～」

講師：池谷尚武氏（岐阜大学教育学部教授） 参加者：40名

主に知的障害・発達障害者福祉を例に挙げ説明されました。

・障がいのある子供の保護者・兄弟支援
障害の気づきを、早期に発見し、早期・療育・早期教育に結び付ける。(主に、身体・知的機能の発育・

発達について)

・発達障害児の理解と支援

発達障害の支援の大切な2つのポイント

① 肯定的な対応をする。

本人が成功体験をする。生き甲斐を感じ、自信を持って物事に取り組める。本人が失敗しても責めない。上手く行ったことをほめる。

② スモールステップ

一度に理解させようとせず、少しずつ段階を踏んで支援する。

以上の考え方は、発達障害の人だけでなく、すべての人への接し方や教え、支援の基本です。

③ 特別支援教育の現状と課題・学校教員と障害者福祉

特別支援教育の話題を初めて聞きましたが、他障害の実態を知ることも重要と感じました。

・特別支援教育のこれから

1. 学校と家庭の連携：生きる力を育てる
2. インクルーシブ教育（同じ場所で共に学ぶ）の推進

④ 家族支援について

家族会への参加等、苦難を話し合える場（家族会）がある。

他分野の障害者の問題点・対策は精神障害者と同じ場面も多くあり、新鮮で参考になりました。

講演後に「精神の方は、まず内なる差別撤廃を実行すべき」との指摘を受けました。

「ぎふかれん」からのお知らせ

○濃飛バス「高山 ⇄ 岐阜」高速バス運賃割引（半額）精神障害者にも適用
令和元年12月1日より実施。要求が実現しました。

濃飛乗合自動車株式会社（濃飛バス）と交渉を重ね、実現しました。

（これまでは、岐阜からは半額、高山からは割引なしでした。）